

第2 安全対策

1. 安全管理体制

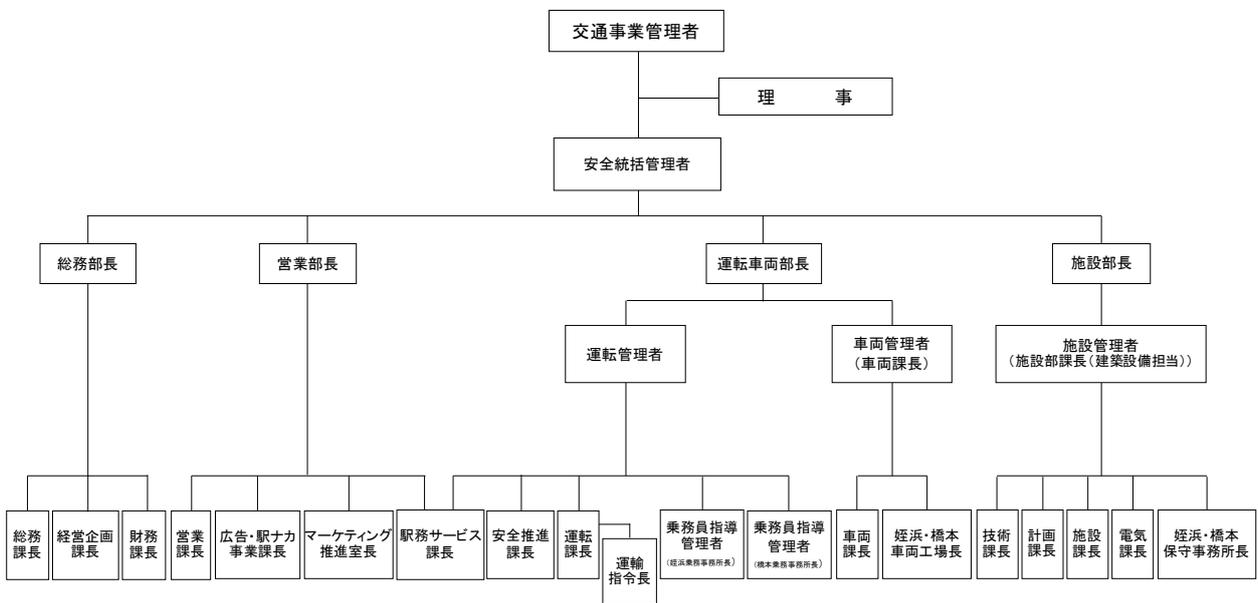
福岡市地下鉄では、運転保安装置であるATC（自動列車制御装置）及びATO（自動列車運転装置）を開業時から導入し、安全に最善を尽くしている。

また、平成17年度に全駅でホームドアの設置を完了する等、車両や施設面の充実を図っており、これまで列車の衝突、脱線等の事故は発生していない。

福知山線脱線事故を契機として、平成18年に鉄道事業法が改正され、同法に基づき同年10月に「福岡市交通局安全管理規程」を新たに制定した。この安全管理規程は、福岡市高速鉄道事業における輸送の安全確保のための基本的方針並びに事業の実施及び管理の体制及び方法を定めたもので、これにより新たな安全管理体制を確立している。

(1) 組織体制

安全の確保に関する体制表



(2) 安全に関する会議

会議名	構成メンバー	実施内容
経営会議	交通事業管理者、理事、各部長	地下鉄経営に関し、基本方針や安全性向上等の重要施策の審議、決定
安全推進会議	安全統括管理者、各部長、運転管理者、施設管理者、車両管理者、技術課長	<ul style="list-style-type: none"> 運輸安全マネジメントの推進 事故・災害等の情報分析及び事故防止対策の策定 内部監査の実施 各責任者による現場巡視

※ 運輸安全マネジメントとは、ISO9001等を参考に作られた「安全に関して組織を指揮し、管理する取組」を取り入れた新たな安全管理手法である。

2. 安全重点施策

輸送の安全を確保するための基本的な方針に基づき、「安全目標」を定め、これを達成するために様々な取組を「安全重点施策」として策定し、進捗状況を管理している。

令和5年度における安全重点施策は次のとおり定めている。

安全目標	目標達成のための取組	内 容
安全運行の実現	鉄道運転事故・輸送障害・インシデントのゼロ	「鉄道事故等報告規則」における鉄道運転事故、輸送障害及びインシデントのゼロ（交通局に責任のあるものに限る）
	安全性向上のための人材の育成・管理	① 乗務員、駅務員等の教育訓練及び安全に関する評価を定期的実施 ② 乗務員及び駅務員等の資質管理の徹底 ③ 乗務員のアルコールに関する自己管理の徹底及び乗務前のアルコール測定の実施（測定器の設定値(下限値)：0.05mg/ℓ） ④ 職員の技術力の継承・向上
	車両、構造物、駅施設及び設備の計画的改良	安全性・信頼性の向上を図るため、運転保安設備の要であるATC設備の改良や車両、構造物、駅施設、軌道設備及び電気設備の計画的改良を実施
安全最優先の組織風土を確立	安全マネジメントの推進	① 関係法令遵守と安全最優先意識の徹底 ② 事業者の事故等に関する情報の活用 ③ 内部監査の充実
万一の事故・災害等に備えて	大規模自然災害等の対応	① 大規模自然災害及びテロに備えた危機管理体制の確保 ② 電力供給不足時における危機管理体制の確保
	外部への情報提供	大規模事故発生時等の外部への情報提供体制の整備
	関係機関と連携した各種訓練の実施など	① 事故復旧体制の教育訓練の実施 ② 事故復旧訓練の実施 ③ 災害対応訓練の実施
安心してご利用いただくために	駅係員全員の普通救命講習受講	① 駅係員の救急・救命の応急処置技能の向上 ② AEDの日常点検と維持管理
	各駅のAEDの適切な管理	
	新型インフルエンザ等対策	新型インフルエンザ等に関する情報収集及び状況に応じた対応
	お客様への適切な情報提供	案内放送・案内表示等の拡充

3. 安全に関する設備投資

安全設備の主なものとして、ATC（自動列車制御装置）、ATO（自動列車運転装置）、ホームドア、地震監視装置、風速・雨量警報装置、運転シミュレータ装置等を設置、維持管理し、安全を確保している。令和4年度においては、総設備投資額約73億円のうち、安全に関する設備投資額は約52億円である。

4. 鉄道運転事故・インシデント・輸送障害

	鉄道運転事故	インシデント	輸送障害	計
平成30年度	0	0	0	0
令和元年度	0	0	2	2
令和2年度	0	0	1	1
令和3年度	0	0	0	0
令和4年度	0	0	1	1